

義務教育学校への移行に向けて(その2)

平成28年4月に、「平成28年4月に新設された義務教育学校は、全国で22校が開校。平成29年度4月以降に向け119校が準備段階にある」と文部科学省から公表されました。

多久市でも平成29年4月の義務教育学校への移行に向け、準備を行っています。その内容をお知らせします。



◆義務教育学校のQ&A

Q5 校名はどうなりますか？
A 中央小・中央中学校は、多久市立東原庁舎中央校

東部小・東部中学校は、多久市立東原庁舎東部校
 西深小・西深中学校は、多久市立東原庁舎西深校
 となります。

愛称(小中一貫校名)として使ってきた多久の伝統教育を引き継いだ「東原庁舎」の名称を正式校名にします。

Q6 校章・校旗はどうなりますか？

A 校章は変わりません。しかし、校旗には学校名が入っていますので、校旗は作り変えます。3月24日修了式で各校から校旗の返納を受け、4月始業式で各校に義務教育学校の校旗を渡します。

Q7 義務教育学校の学区はどのようになるのですか？

A これまでの学区に変更はありません。

Q8 義務教育学校では、6年生の卒業式が無くなると聞きました。今年度はどうなりますか？

A 義務教育学校では「6年生の卒業」「7年生の入学」は制度上なくなります。今年度の6年生卒業式と来年度4月の7年生入学式は行いますが、義務教育学校移行後は、6年生の卒業式と7年生の入学式は行いません。

今後は、入学式・卒業式にかわり、「立志式」、「二分の一人式」を節目の行事として実施します。家族への感謝の思いと将来の夢を語る姿を保護者や地域のみなさんと祝っていききたいと思えます。

■問い合わせ

教育委員会 学校教育課

☎75-22227

温故創新

市長コラム Message for citizen

挑戦こそが伝統を生む

有田焼400年に思う

市長 横尾 俊彦

今年是有田焼創業400年。各種祝賀行事が展開中です。400年を迎えた有田焼の始まりには多久も関わりがありました。朝鮮から渡来し、後に陶祖と讃えられる李参平は鍋島藩・鍋島直茂の重臣・龍造寺家久(のちの多久安順)のもとで十数年の歳月を多久で過ごし、作陶を試みます。その後、有田泉山で良質の白磁石が見い出され、移住。ここを拠点に活動を続け日本初の白磁器を産業として始めます。1616年(元和2年)のことです。有田焼誕生とされる歴史の出来事です。

400年記念式典で人間国宝・井上萬二先生のご講話を拝聴しました。辛苦克服と創意飛躍の半生を述べられ、毎年20の新創作を20年間続ける努力をあえて自身に強いられることは圧巻でした。あくなき探求心に感銘いたしました。

「伝統は挑戦の連続から生まれる」、「見えるもの全てから学び、」姿勢と、「寸暇を惜しんで学び、自分を高めなければ良いものは生み出せない」の警鐘も話されました。怠惰に走りがちな傾向に対しては、「酒を飲み明かして愚痴を言い合っても何も生まれません。本当にやりたいなら独りで努力すべき」の指摘は、各界トップランナーも語る成功の要諦に通じるものです。誰もが知っていますが、実際に実行に移す人は少ないのです。

不透明で不確実な変化の時代で、肝心なのは、本気で変化に向かうこと。きっと李参平がそうであったように、歴代名匠がそうであったように。今の自分に不満なら、一念発起し、地道に努力するしかありません。簡単明瞭です。

九州陶磁器文化館前庭で開催中のUSEUMは、日常使用のuseと博物館のmuseumの統合概念の具現化。人間国宝による器

で佐賀の旬な食材料理を堪能できる新企画の挑戦そのもの。挑戦こそ未来を拓く。未来を新たにし、望む未来を確保するため、苦しく勇気もいるけれどお互い挑戦を始めましょう。

